

# みんなで守ろう！ みどりのまち



皆さんは、森の  
はたらきをい  
くつご存知ですか？  
まず思い浮かぶの  
が、光合成によって  
二酸化炭素を吸収す  
るはたらきです。日



本全国の森林が吸収する二酸  
化炭素の量は、年間約1億ト  
ン。これは、国内の全自家用  
乗用車から排出される約7割  
に相当します。先進国の中で  
日本が6%の温室効果ガス排  
出量削減（1990年比）を

義務づけられた京都議定書で  
も、新たに整備した森林が吸  
収する二酸化炭素を削減量に  
算入することが認められてい  
ることからも、森林が地球環  
境保全に大きな役割を占めて  
いることがわかります。

このほか、森林には根を張  
ることで土砂が流出しないよ  
うにするはたらきや、雨水を  
一時的に蓄え、洪水などを防  
ぐはたらき、生きものの棲み  
かとなつて生態系を保全する

ために漁業関係者が中心と  
なった植樹も行われていま  
す。また、里山ばかりでな  
く、野洲川や日野川沿いの森

はたらきなど、さまざまは  
たらきがあり、その価値を金  
額に換算すると全国で数十兆  
円もの価値があると言われて  
います。

市内でも、このようなはた  
らきを持つ森林を保全するた  
めに、多様な活動が活発に行  
われています。例えば、大篠  
原や小堤の里山では地元の生  
産森林組合と連携して林道の  
整備を行ったり、間伐林の活  
用が検討されているほか、び  
わ湖の水源となる森づくりの  
ために漁業関係者が中心と  
なった植樹も行われていま  
す。また、里山ばかりでな  
く、野洲川や日野川沿いの森



多くの自治会が緑の募金を活用  
するなどして、地域の緑化に  
取り組んでいます。

市では、このような活動を  
支援するとともに、一定の開  
発行為において条例で樹木等  
の植栽を義務づけるなど、緑  
豊かなまちづくりをめざした  
仕組みづくりに取り組んでい  
ます。

重要なはたらきを持つ森林  
を守っていくには、多くの人  
の理解や協力が必要です。野  
洲市が緑あふれる住みよいま  
ちとなるよう、皆で一緒に取  
り組みを始めてみませんか？

など森林を保全する活動が行  
われています。このほか、多

# 歴史の小窓

—学芸員のメッセージ—

歴史民俗博物館

(57)

☎587-4410、Fax587-4413

## 第62回銅鐸研究会

「桜井市纏向遺跡と銅鐸の終焉」(仮題) /

7月4日 午後2時~4時

講師...橋本輝彦さん(桜井市教育委員会)

邪馬台国の有力地と考えられる桜井市纏向遺跡に近い大福遺跡や脇本遺跡からは、壊された銅鐸の破片や青銅器鋳型の一部が相次いで出土しています。これらは銅鐸を鋳潰して他の青銅器を鋳造したと考えられます。そこで今回は、銅鐸祭祀の終焉とヤマト政権の成立についての話を聴きます。

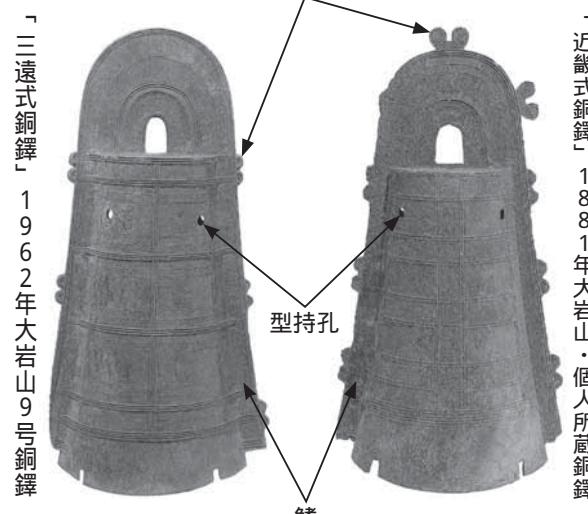
事前申し込み不要。聴講には博物館入館料が必要です。

銅鐸は、米づくりが始まった弥生時代に村々で使用された共同の祭器だと考えられています。近年の研究では、弥生時代中期のはじめ(紀元前4世紀ごろ)に名古屋市朝日遺跡から最古の銅鐸鋳型が発見され、名古屋市周辺で小型の銅鐸が誕生したと考えられています。その後、近畿地方でより大きな袈裟襷文や流水文の銅鐸が造られるようになり、近畿地方を中心とする村々の祭器となりました。

野洲市小篠原大岩山から発

見された24個の銅鐸は、いずれも弥生時代後期(紀元1~2世紀)につくられた大型の銅鐸です。中でも日本最大の銅鐸(高さ134・7cm、重さ45・47kg)はよく知られています。また、大岩山銅鐸の中には、近畿地方の銅鐸「近畿式」と東海地方の銅鐸「三遠式」(愛知県東部の三河と静岡県西部の遠江から大半数が出土する)ことから「三遠式」というがみられます。

「近畿式銅鐸」は、つり手の頂に渦巻文の飾耳をそな



「三遠式銅鐸」 1962年大岩山9号銅鐸

え、型持の孔が長方形で、鰐や外周にみられる三角形の文様(鋸歯文)の内部と同じ方向の斜線で飾るなどの特徴があります。

「三遠式銅鐸」は、つり手に飾耳がなく、型持の孔は橢円形で、三角形の紋様の内部の斜線は互い違いに方向をかえるなどの特徴がみられます。

このように紀元1~2世紀になると同じ銅鐸でも、近畿地方と東海地方では異なる銅鐸を用い、それぞれ祭器の上

からも地域的なまとまりが生まれていたことがわかります。更に大岩山銅鐸を詳しくみると、近畿式・三遠式の両者の特徴をそなえる銅鐸が数多くあり、近畿地方と東海地方の勢力に挟まれた近江の社会状況が銅鐸にも反映しているのです。

3世紀の後半になると村々を統率する有力な権力者が現われてきます。権力者は、権力を示す大きな墓(古墳)を行つようになり、自らの権力を示す大きな墓(古墳)を

築きます。それまで村々の神器・シンボルであった銅鐸は、壊されたり、飾耳を切り取られたり、大岩山銅鐸のように広範囲から集められ埋められることとなつたのです。

銅鐸が埋められた大岩山丘陵には、その後銅鐸を埋めさせた権力者の古墳が10世代以上にわたつて築かれ、このうち今も残る8基の古墳は大岩山古墳群(富波古墳・古富波山古墳・大塚山古墳・亀塚古墳・天王山古墳・円山古墳・甲山古墳・宮山1号墳)として、国史跡に指定されています。

大岩山は、まさに弥生時代の終わりから古墳時代への社会の移り変わりを如実に示す地域として、古代史上特筆すべき遺跡群なのです。

博物館では、実物6点を含む30点以上の銅鐸をはじめ、小銅鐸や銅鐸鋳型などを紹介し、さまざまな機会に弥生社会の謎を読み解く試みを行っています。私たちとともに銅鐸や古墳から古代の謎解きに挑みませんか。

(学芸員 進藤武)